

東日本大震災にて多大な支援をいただきました熊本、大分両県の皆さまには、このたびの災禍に謹んでお見舞い申し上げます。

東北では震災から五年三カ月がたちました。私も復興支援の一翼を担いたいと起業して一年二カ月。この間、地元企業の再建・復興の様子を見続けてきましたが、水産業の

東北復興日記

まだまだ



▶▶▶ 185



一般社団法人IkiZen
代表理事
齋藤由布子さん



地域の絆で石巻ブランドを

売り上げは震災前の六割程度しか回復できていません。そうした状況の中、単独の企業が「点」で勝負するよりも、

横の連携を強めて地域自体をブランド化し、「面」で勝負しようとする動きも目立ってきました。

いち早く立ち上がり、共同で販売開始にたどり着いたのが宮城・石巻の商品です。震災後一週間ほどでベースとなる「元気復興委員会」が発足。株式会社松弘堂の松本俊彦社長は、自社が被災しながらも被災企業三十社の窓口を請け負い、「知恵と協力でピ

ンチをチャンスに！」をスローガンに、「石巻元気復興センター」を開設しました。

「みんなで力を合わせよう」と必死だった二〇一一年。同年十二月には、石巻被災企業復興企画商品詰め合わせセット「絆」が販売され、ボランティアで石巻に来られた方々や戻り始めた観光客の人気を呼び、全国からも注文が入るようになりました。

今回紹介する「元気Eセット」写真には、炊き込みご飯にも使える「牡蠣の潮煮」、身の厚いトロトロの「金華メサバ」、ワインのアテにぴった

りな「牡蠣くん製オリーブオイル漬」「牛たん入つくね」、電子レンジで焼き魚ができる「海草焼 銀鮭一汐」の五品が入り、全て冷凍品で税・送料込み四千二百円です。販売開始から四年たった今では、石巻のおいしいお米やスイーツの詰め合わせも企画中。ハラル商品はタイやインドネシアで人気を博し、継続性のある活動を続けており、今後

も目が離せません。

問い合わせは石巻元気復興センター▶▶▶電0225(96)5557へ。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。